

八代市文化ホール等あり方検討会 第4回

令和2年12月25日(金) 10:00～
代陽コミュニティーセンター会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 協議事項

- (1) 厚生会館の劣化度調査中間報告及び
各施設の今後の改修の見通しについて (資料①、資料②)
- (2) 八代市文化ホール等あり方に関する報告書(案)について (資料③)

4. その他

5. 閉 会

八代市厚生会館ホール現場視察

1. 調査概要

本調査は、昭和37年建設の八代市厚生会館において、平成29年3月に策定された「八代市公共施設等総合管理計画」に基づき、目標耐用年数を考慮した施設整備について、現況調査を行い劣化度等の評価をしたうえで、現行法令や調査によって確認された諸課題を整理することを目的として行っているものである。

<施設概要>

- (1) 名称 八代市厚生会館（本館）
- (2) 用途 劇場
- (3) 構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
- (4) 階数 地下1階 地上3階
- (5) 延床面積 2,956.28 m²
- (6) 主な諸室 客席（964席）、舞台、楽屋、ホワイエ、便所 ほか
- (7) 完成 昭和37年3月31日
- (8) 開館 昭和37年7月18日

2. 調査期間 令和2年7月20日から令和3年1月29日まで

3. 調査内容

- (1) 机上調査 設計図書、特定建築物定期点検結果等
- (2) ヒアリング 施設管理者等
- (3) 現地調査 目視や打診、動作確認、専門技術者等による特殊診断等

4. 調査中間報告（今後20年間使用していくために必要な改修項目）

(1) 建築関係

- ① 機械室の新設
- ② 非構造部材（客席吊天井）の耐震化
- ③ 正面エントランス庇、内部クラック等の修理
- ④ 舞台資材搬出入路整備
- ⑤ 長年の劣化蓄積による建物周囲及び客席一部の沈下があり、改修が必要。
- ⑥ 屋上防水、外壁改修は30年以前に行ったのみであり、屋上防水の劣化及びコンクリートのクラック等による雨漏りが著しく改修が必要。
- ⑦ 経年劣化によって中性化等が原因である鉄筋腐食によるコンクリートの爆裂破壊が多数見られるため、大規模な改修が必要。

- ⑧ 現行の建築基準法等に抵触しており、改修が必要。
 例： 上手及び下手の楽屋廊下扉について開き勝手の改修（内開き→外開き）
 階段手摺の高さを 110 cm に嵩上げ改修
- ⑨ バリアフリーに対応していない。
 例： 玄関ドアやスロープなど
- ⑩ 客席の椅子が現代の成人の体格では、狭く窮屈すぎるため椅子の幅を広げる改修が必要。
 （964 席 [45 cm] → 734 席 [54 cm] ※固定 652 席+移動 82 席）

(2) 設備関係

- ① 建設当時から大規模改修を行っていない空調設備や電気設備などの建築設備全般に経年劣化の進行が著しいため、改修が必要。
 （空調ダクト、冷温水配管、電気配線など）
- ② 高圧受電設備、防災用設備、ホール空調設備及び給排水設備の新設が必要。
 （自家発電設備、空調用熱源、受水槽、消火水槽など）

(3) 舞台関係

- ① 舞台大道具搬入口のトラック用プラットホームの整備が必要。
- ② 舞台吊物機構設備は、昭和 59 年にブドウ棚を木製から鉄製に改修して以来、36 年が経過しており、耐震化及び電動化が必要。
- ③ 舞台床のささくれや劣化が著しいため補修及び張替えが必要。
- ④ 舞台照明設備及び客席照明の改修が必要。
 （舞台照明設備は、改修後 15 年経過）
- ⑤ 舞台音響設備は、改修後 10 年以上経過しているため、改修が必要。

5. 建築に係る改修項目及び概算改修費用（中間）

改修項目	改修費用（千円）	
機械室新設	69,310	※
大ホール吊天井改修	88,384	※
外・内部改修（正面エントランス庇、内部クラック等）	7,989	※
舞台資材搬出入路整備	8,303	※
舞台床改修	2,733	※
客席沈下改修（上手中通路前方付近）	9,406	※
外壁改修	38,570	
屋上防水改修（舞台中央、ホワイエ2階天井雨漏り）	51,549	
客席改修（964席（45cm）→734席（54cm）（固定652席+移動82席））	222,063	
主入口自動ドア改修（バリアフリー法）	14,136	
外部スロープ新設（バリアフリー法）	5,255	
外部階段等改修（バリアフリー法）	6,728	
エレベーター新設（バリアフリー法）（ホワイエ1階⇔2階）	35,000	
楽屋周りドア改修（建築基準法に抵触）	1,104	
計	560,530	

※建築合計 186,125千円

6. 設備に係る改修項目及び概算改修費用（中間）

改修項目	改修費用（千円）	
高圧受変電設備新設	43,571	※
低圧電気設備改修	74,488	※
防災設備改修（火災報知設備、非常放送設備、自家発電設備等）	44,992	※
ホール空調設備改修（熱源・空調機等新設、換気設備等）	274,955	※
給排水、消火設備改修（貯水槽等新設）	87,594	※
舞台機構設備改修（ブドウ棚含む）	549,618	※
館内照明関係LED化改修	59,027	
舞台照明設備改修（LED化）	201,068	
舞台音響設備改修	152,072	
計	1,487,385	

※設備合計 1,075,218千円

※再開館にあたり必要最低限の概算改修費用 合計 1,261,343千円

7. 今後20年間使用していくために必要な概算改修費用（5+6）

2,047,915千円

各施設の今後の改修の見通しについて
建物や設備の状況

協議資料②

施設名	厚生会館	鏡文化センター	八代市公民館	桜十字ホールやつしろ
所在地	西松江城町 1-47	鏡町内田 468-1	千丁町新牟田 1433	新町 5-20
市役所からの距離	0.5 km	8.5 km	4.8 km	0.6 km
延床面積	3,493.8 m ²	3,623.9 m ²	4,450.8 m ²	6,101.5 m ²
敷地面積	10,552.4 m ²	11,603.0 m ²	4,409.0 m ²	16,602.4 m ²
施設の構成	※ ホール部分のみ ホール 1 (964席) 楽屋 4 ホワイエ	※ 図書館含む ホール 1 (594席) 楽屋 3 ホワイエ リハーサル室 会議室 2	※ ホール部分のみ ホール 1 (535席) 楽屋 3 ホワイエ リハーサル室 公民館会議室 6	ホール 1 (494席) 楽屋 4 ホワイエ ピロティ 練習室 会議室 8 その他
設置の形態	単独	図書館併設	公民館・温泉浴場併設	単独
駐車台数	200 台	70 台	30 台	228 台
隣接	約 0 台	約 250 台	約 220 台	約 0 台
開館の年月	昭和37年7月	平成11年4月	平成8年4月	平成12年6月
経過年数	58 年	21 年	24 年	20 年
建築費(当時)	211,400 千円	1,376,000 千円	2,451,192 千円	2,895,000 千円
今後10年以内に見込まれる改修工事	別紙参照	高圧受電設備改修 会議室系統空調設備改修 吊天井改修 舞台照明設備改修(ユニット) 舞台音響設備改修 ホール空調用冷凍機改修 回廊敷石改修	吊天井改修 舞台音響設備改修 外壁改修 トイレ改修 LED化改修	屋上防水改修 舞台照明設備改修(ユニット) 舞台音響設備改修 会議室空調設備改修(R2) 会議室マイク設備改修 外壁タイル改修 屋内電灯LED 屋外街灯改修
	計438,100千円	計1,376,000千円	計1,900,609千円	計584,100千円

資料③

八代市文化ホール等あり方に関する報告書（案）

令和3年1月

八代市文化ホール等あり方検討会

目次

1. ホール施設の重要性

2. 八代市ホール施設の課題

3. 八代市ホール施設のあり方

(1)各ホールの理念や特色づくりとホール間の連携

(2)市民協働(学生、地域住民、地元企業等)による企画・運営

(3)ソフト事業の更なる充実と事業のフィードバック

(4)管理体制の見直しと人材育成

(5)市内ホール施設の今後の方向性(仮)

(6)本市文化の発展に向けた施設の検討と社会・財政状況に応じた効率化
(仮)

4. 「八代市文化ホール等あり方検討会」検討経緯

(1)八代市文化ホール等あり方検討会開催状況

(2)八代市文化ホール等あり方 市民アンケート調査

(3)検討会において提供、使用した資料

(4)八代市文化ホール等あり方検討会 委員名簿

1 ホール施設の重要性

文化芸術は、人々に感動や生きる喜びをもたらして人生を豊かにするものであり、社会全体を活性化するうえで大きな力となるものである。その役割は極めて重要であり、その中で文化施設は、人々が様々な文化芸術を身近で発表し、鑑賞し、体験する場として、さらには人々の交流を通して地域づくりに活かしていく拠点として大きな役割を担っている。

また、ホール施設（劇場、音楽堂等）の重要性について、国は平成24年に「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を制定し、この法律において、「劇場、音楽堂等は、文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場であり、また、人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点である。」とし、長期的な視点に立ち、戦略的な管理運営へ取り組むよう求めている。

八代市では平成27年度に策定した「厚生会館及び千丁・鏡文化センター運営方針」において「市民に良質な芸術文化の鑑賞と体験の場を提供することにより、八代市の文化をより多彩に、またより充実したものに育て、次世代へ継承させることを使命」としており、「八代市文化の発信基地」として位置づけを行っている。

また令和2年6月に実施した「文化ホール等あり方検討に関する市民アンケート」において「文化芸術活動を発表するうえでホールや会場があること」について「非常に大切」「ある程度大切」と回答した方が約88%を占めており、市民の方々にとってホール施設の必要性の高さがうかがえる。

2 八代市ホール施設の課題

八代市は、八代市厚生会館、鏡文化センター、桜十字ホールやつしろ（ハーモニーホール）、八代市公民館（旧パトリア千丁）の4つのホール施設を有しており、これらの施設は、平成17年の市町村合併以前にそれぞれの地域で建設され、地域に根差した管理・運営を行ってきた。

しかしながら4施設ともに開館から数十年が経過し、様々な修繕や改修が必要になってきており、特に厚生会館については築58年が経過しようとする中で、老朽化や駐車場不足が、直面する大きな課題となっている。

また厚生会館以外の3施設はいずれも客席が500人規模の類似した施設であり、機能面で重複していることから、それぞれの施設ごとの特色ある取り組みが必要となっている。

その一方で「文化ホール等あり方検討に関する市民アンケート」において、過去3年間にホール施設等が実施する「自主文化事業」に参加された市民の方は約28%にとどまっており、文化の拠点としての役割や市民のニーズに応えたプログラムを十分に果たせているとは言い難く、ハード整備のみならず、「八代市文化の発信基地」として「自主文化事業」等の新たな展開によるソフト面の充実や情報発信の強化に取り組む必要がある。

これらのことから、今後、少子高齢化・人口減少など、益々変化していく社会構造の中で、八代市の文化をより多彩に、またより充実したものに育て、次世代に継承していくための施設とするべく「八代市ホール施設のあり方」について検討を行ったので報告する。

3 八代市ホール施設のあり方

(1) 文化に対する理念や各ホールの特色づくりと連携

- ▶ 行政側の文化に対する姿勢をきちんと明文化したうえで限られた予算のなかでどういう政策を打っていくのかを考えたほうが、どこに力を入れて行ってもらいたいという取捨選択がしやすい。
- ▶ 4つの施設がそれぞれコンセプトをしっかりと持つことが大事である。全体のコンセプトはもちろん、各施設のコンセプトをもつこと。そしてそれらのコンセプトがしっかりと落とし込まれることが大事である。例えばロゴマークや、施設のデザイン統一、職員の服装などで施設の色を出していき、それら各施設が協力しあい、競争しあうことで相乗効果につながる。
- ▶ 「日ごろから何となく行ってみたいくなる魅力ある施設」にするための取り組みとして、ロビーをもっと活かして魅力あるものにするべき。
- ▶ 各ホール施設はそれぞれ所管する課が違うのでほとんど連携が取れていない。
- ▶ 千丁の八代市公民館は営利目的での利用ができないので、大変使いづらい
- ▶ 地域の特性が活かされた使い方ができていない
- ▶ 地域の特徴やホールごとの役割を絞った取り組みが大切。八代市公民館のホールは子供向けの演劇や発表会をするのにとっても使いやすく安心感がある。

《提言》

文化ホールのあり方として、まず行政側が文化に対する姿勢や文化ホールの役割についてしっかりと明文化し、各ホール施設がそれぞれの地域性や特徴を生かした継続的な取り組みを行いながら、市民が日頃から行ってみたいと思える魅力のある、文化の拠点としての役割を果たしていくことが重要である。

そのため、各ホール施設ごとのコンセプトを明確にし、地域に根差した取り組みを継続的に展開するなど、様々な工夫をしながらホールの特色を打ち出し市民に認知してもらうことが必要である。

また所管課や適用法の違いから生じる利用の不便さについては相互の連携を図りながら事業の棲み分けを行うなどして利用を促進し、幅広い多様なジャンルの事業に対応できるよう取り組みを行うことが必要である。

(2) 市民協働（学生、地域住民、地元企業等）による企画・運営

- 市民とともに事業を考え、作り上げ、市民がもっとホールと関わっていくことが文化意識の向上やホールの効果的な利用につながる。
- 地元の企業も一緒になって盛り上げていくような市民参加型を進めて行くべき。
- 例えば月ごとにいろいろな団体や企業が交代で担当して企画を考えたり草取りを行ったり、市民がホールにかかわる機会をたくさん作ることが大切である。市民アンケートでも「ホールを知らない」という人の割合が多い状況であった。
- 技術スタッフなどで市民に関わってもらい、必要な資格を取れるようにしたらどうか
- 若い者を巻き込んでいくような取り組みを考えていくべきである。
- コロナ禍では協賛の取れる企業は少ないのではないか。しかしこれから文化事業をどうするのかを考えるのはいいチャンス。地域の皆さんが地域のホールを愛して誇りに思って、チームごとに盛り上げていく方策を考えていくことで延命措置ができ、新たな利用方法も見えてくるのではないか。
- 友の会制度は今後必要な取り組みである。
- ボランティア的存在や、友の会的なものを4館の共通システムとして作ってはどうか。技術スタッフに関してもボランティアを募って取り組むことでより連携が深まると思う。
- 運営形態を見直しつつ、地元の方を信じて地元の方が支えていく会館になることが一番理想である。

《提言》

市民の文化意識の向上やホールの効果的な利用のためには、市民がより積極的に文化芸術に関わり、市民がより身近に感じる取り組みを生み出していくことが求められる。

そのため、ホール施設の企画や運営そのものに市民参加の働きかけを行い、より主体的にホールに関われるような仕組みを作っていくべきである。学校や地域住民、地元企業などを巻き込み、互いの強みを生かしつつ連携をとりながら、市民全体で支えていく態勢を作っていくことが必要である。

さらに、ボランティア制度や友の会制度なども取り入れることで、地域住民が地域のホールを愛し、誇りに思えるような働きかけを行うことが必要である。

(3) ソフト事業の更なる充実と事業のフィードバック

- 市民の文化意識の向上につながるソフト事業を展開する必要あり。そのうえで本市の財政状況に見合った施設の数や質が必要となる。
- 常に運営方針に沿った事業の検証やフィードバックをしていくことが必要
- コロナ禍で社会情勢やホールの意義もだんだん変わっているのに合わせた取り組みを検討していくことが必要
- 物はあるように恵まれてきたが、あとは心の問題である。今は、人が何を求めているのか、共感、優しさ、絆、親近感を人は求めている。
- ワンコインコンサートや平日昼間を利用したり年齢を絞ったコンサートなどはとてもいい企画である。
- ピアノの日、スタンウェイ独り占めなどのステージピアノ企画も市民に楽しんでもらえるのでは。
- 事業を行うことが目的になることなく、しっかりとフィードバックを行うことが大切
- 単に稼働率を上げるのが目標ではなく、幼い子供たちへの教育が大切。未来への投資となる

《提言》

市民に文化芸術活動をより身近に感じてもらうためには、常に事業を運営方針等に照らしてフィードバックを行い、見直しや新たな企画に挑戦しながら、広く市民のニーズにこたえられるような事業展開をしていくことが重要である。

またコロナ禍により、人との距離感や関り方が希薄になっていく中で、音楽や芸術に触れることで人々の絆を生み、心の豊かさを創造していくためにもホール施設の役割は重要であり、さらなる利用促進が求められる。

そのため、利用の少ない時間帯の効率的な活用策や、ジャンル、年齢等の対象を絞ったプログラムなど、これまでホールに足を運ぶことの少なかった、新たな利用者層の開拓につなげることや、コロナ禍における映像配信事業など、新しい視点からの取り組みにも挑戦していくことが必要である。

また単にホールの稼働率向上だけに目を向けるのではなく、未来への投資として、若い世代や幼い子供たちがホール施設をより身近に感じ、気軽に立ち寄れるような取り組みを実践するとともに、教育としての活用にも力を入れる必要がある。

(4) 管理体制の見直しと人材育成

- 2, 3年で異動してしまう現状では長期的な取り組みが難しい
- 長期的に携わる人がいることで市民の相談窓口となって様々な取り組みを企画できるのではないか
- 地域の指導者や運営者の人脈を利用して、本当に見せたい人を呼ぶことが可能となる。
- 長期的な人材配置のためにも指定管理制度も検討する必要があるのでは
- 指定管理については、修理すべきところが放置される場合もあり、その点は直営の方が常に職員の監視の目があるので良いと思う。
- 指定管理は、例えば全国展開をしている会社だと、人気のある公演を安く展開できるのは否定しないが、地元の人たちが意見交換をしたり普段からの付き合いができる人をちゃんと派遣してもらえるのか疑問。
- 全国的にも、やはり株式会社は収益が第一で、収益を上げることはもちろん、コストをカットすることにもシビアである。最低限安全面の確保などがちゃんと担保できているか、委託する行政側もしっかりチェックしていく必要がある。
- ホールのあり方として仮に指定管理とするならば、市内のホールは同一業者が管理するなど、連携をもって運営できればと思う。複数の館を同じ指定管理者に管理してもらうことでそれぞれの館の特徴を生かして企画運営が可能となるのではないか。

《提言》

文化ホールがその役割を十分に果たすためには、専門的な知識や経験を持った人材の配置が必要であるとともに、ホール施設活用や企画運営における相談窓口としての役割が求められる。また、地域との人脈を築き、文化人材とホールを結びつけ、より質の高い公演などを事業展開できるような体制作りが必要である。

そのため、行政が直接運営するのではなく、ふさわしい団体等に施設の管理運営を委託するなど、指定管理者制度の導入等も視野に入れ、長期的かつ専門的な知識や技術を持った人材の雇用が可能となるような見直しを図るべきである。

さらに、仮に指定管理者制度を導入する場合も、しっかりと地域に根差した取り組みを行い、単なる利益主義に陥らないよう常にチェックをし、指導助言を行っていくことが必要である。

(5) 市内ホール施設の今後の方向性 (仮)

- 厚生会館の劣化度調査で、再開が可能という結果になれば、もっと利便性を高め、伝承館と併せた活用を考える必要がある。座席配置の見直しも必要である。すぐれた音響効果はあるが、抜本的な改革をしないと今の状態では厚生会館の存続は難しい。
- 厚生会館は建設から58年余りになり、隣に伝承館も完成する予定であるが、駐車場が少ないうえに裏の幼稚園前道路の交通量も増え事故に繋がる恐れもある。
- 厚生会館を改修するなら座席数が相当減るだろう。同じような規模のホールはいらない。
- 千丁の中央公民館的な使い方をもっと商業的なものでも使えるようにしてほしい。今はとても使いにくい。
- 八代市公民館ホールは現在営利目的での使用は不可であるが、もし指定管理とした場合、ホール部分だけ切り離して運営することで営利目的の利用も可能になるのか。
- 千丁の公民館は、生涯学習課の管理になっているためにホールの利用制限がかかるのなら、制度を変えるか対象から除外しては。
- 八代市公民館のホールを指定管理制度によって今までのように使えるようになったとして、さらにまた厚生会館がもし改修できるとなればまた4つのホールに戻ってしまうと、財政上はかなり厳しいのではないかと。

《提言》

(6) 本市文化の発展に向けた施設の検討と社会・財政状況に応じた効率化

- 安心安全のない、収益性の上がらない施設に膨大な資金をかける余力は市には無いと思う。若者の10年、20年先の未来はどうあるべきかという視点から考えるべき。
- 桜十字ホールに利用が流れているが、どこも同じような500人規模の座席数であり、市は同規模の会館を三つも四つも維持できない。
- 新八代駅近くの土地に思い切って1200～1500人規模のホール施設を建てたらどうか。ホールだけの機能一本ではなく複合的にマルシェなどもできるような施設で。
- 仮に厚生会館を壊して新しくホールを作るという計画はあるのか。通常コンサートをするには最低でも1000人規模以上席はないと難しいといわれている。中途半端なものを作っても仕方がない。
- 仮に新しいホールを作る場合、玉名市のように、大ホールのほかにもう一つ色々な機能を持たせた小ホールを併設することも可能ではないか。

《提言》

「八代市文化ホール等あり方検討会」検討経緯

(1) 八代市文化ホール等あり方検討会 開催状況

第1回 令和2年2月14日(金) 代陽コミュニティーセンター会議室

概要：会長及び副会長選出

検討会の目的や協議事項、今後の予定について

八代市の文化ホール等の現状について

市民アンケートの実施について

第2回 令和2年9月30日(水) 鏡文化センター研修室

概要：市民アンケート報告

ホールを活用した市民の文化意識向上・定着に向けた本市の運

営方針と取り組み

施設稼働率及び収益を上げるための取り組み

他の自治体での取り組みから見えるもの

第3回 令和2年11月6日(金) 八代市公民館研修室

概要：施設の効果的な活用策についての検討

第4回 令和2年12月25日(金) 代陽コミュニティーセンター会議室

概要：厚生会館の劣化度調査結果中間報告及び各施設の今後の改修の

見通しについて

第5回 令和3年1月 日() ○○○○○○○○

(2) 八代市文化ホール等あり方 市民アンケート調査

実施期間 令和2年6月1日～令和2年6月15日

実施対象 18歳以上の市民3000人

有効回答数 1109件(37.0%)

調査結果 別紙のとおり

(3) 検討会において提供、使用した資料

- ①劇場・音楽堂等の特徴的な取組に関する調査事業報告書（平成28年度文化庁委託事業）
- ②ホールを活用した市民の文化意識向上・定着に向けた本市の運営方針と取り組み
- ③施設稼働率および収益をを上げるための取り組み
- ④指定管理制度とは
- ⑤他の自治体の文化ホール施設概要及び取り組み例（大分県日田市、山口県周南市、山口県宇部市、熊本県玉名市）
- ⑥八代市の文化ホール施設概要及び取り組み例
- ⑦ホール運営や企画についての着眼点
- ⑧令和元年度県内自主文化事業実績及びホールの有効活用策
- ⑨熊本県内の主な公立文化施設のホール定員

(4) 八代市文化ホール等あり方検討委員会委員名簿

(50音順/敬称略)

番号	氏名	区分	備考
1	石本 愛	文化関係 ハーモニー利用	あったかハートふれあい劇団
2	岩崎 布見子	文化関係 千丁利用	ピアノ講師
3	柏 昭子	文化関係 日舞	市文化協会
4	川村 健治	イベント利用 県内全域	RKKメディアプランニング
5	多田 満	文化関係 施設運営	厚生会館文化センター運営審議会
6	丁畑 幸美	公募 子ども事業	やつしろ子ども劇場
7	中山 英朗	経済財務	市商工会議所
8	本田 恵介	文化関係 県内全域	熊本県立劇場
9	水本 和人	文化関係 鏡利用	鏡文化祭実行委員会
10	森山 学	建築関係	熊本高専八代キャンパス 建築社会デザイン工学科

※ 任期 令和2年2月14日～令和3年3月31日